

輸出事業計画

※申請者名：株式会社島水、品目：養殖ブリ・その他水産物

1. 輸出における現状と課題

【現状】

当社は、養殖魚を中心にラウンドやフィレの形態で、国内貿易会社を通してアメリカなどの海外向けに出荷している。

国内では魚離れや将来の人口減少などで魚食需要の先細りが予測されている一方で、養殖ブリ類は新興国と言われている国々にも輸出され、寿司・刺身などの日本食需要が高まってきている。

特に中国・香港を中心としたアジア地域への輸出の伸びが顕著となってきたことから、養殖ブリの海外市場は今後も更に広がっていくものと予測される。

【課題】 加工場の新設

他社からの仕入製品が多い現状の出荷形態では販売先・輸出先の拡大展開に限界がある。

そこで、自社で生鮮、冷凍のフィレ、ロインに加工して出荷する方法を考えているが、養殖ブリフィレ等の対米輸出に関してはHACCPの認証が必要であり、また、中国向けには中国向けの水産品輸出施設認定登録が必要であるとともに、対米HACCP水準を求められる。カナダ、台湾、シンガポール、香港等についても、規制はないものの、対米HACCP水準の衛生管理が求められている状況である。

現施設は狭小の上、HACCPに対応した施設・設備環境ではない為、人、物の動線を含め衛生管理に十分な作業スペースも取れない。

その為、HACCPハード事業により加工場を新設して工程ごとに作業ゾーンを区分けして衛生管理に十分な作業環境を確保したい。

人、物の動線を確保しHACCPプランを構築していく。

2. 輸出事業計画の取組内容

R6年度までに自社工場での生鮮・冷凍ブリフィレ、ロインの加工、販売に向けてHACCPプランを作成・運用して早急な認証取得に繋げていく。（目標は令和6年度中の対米HACCP認証）

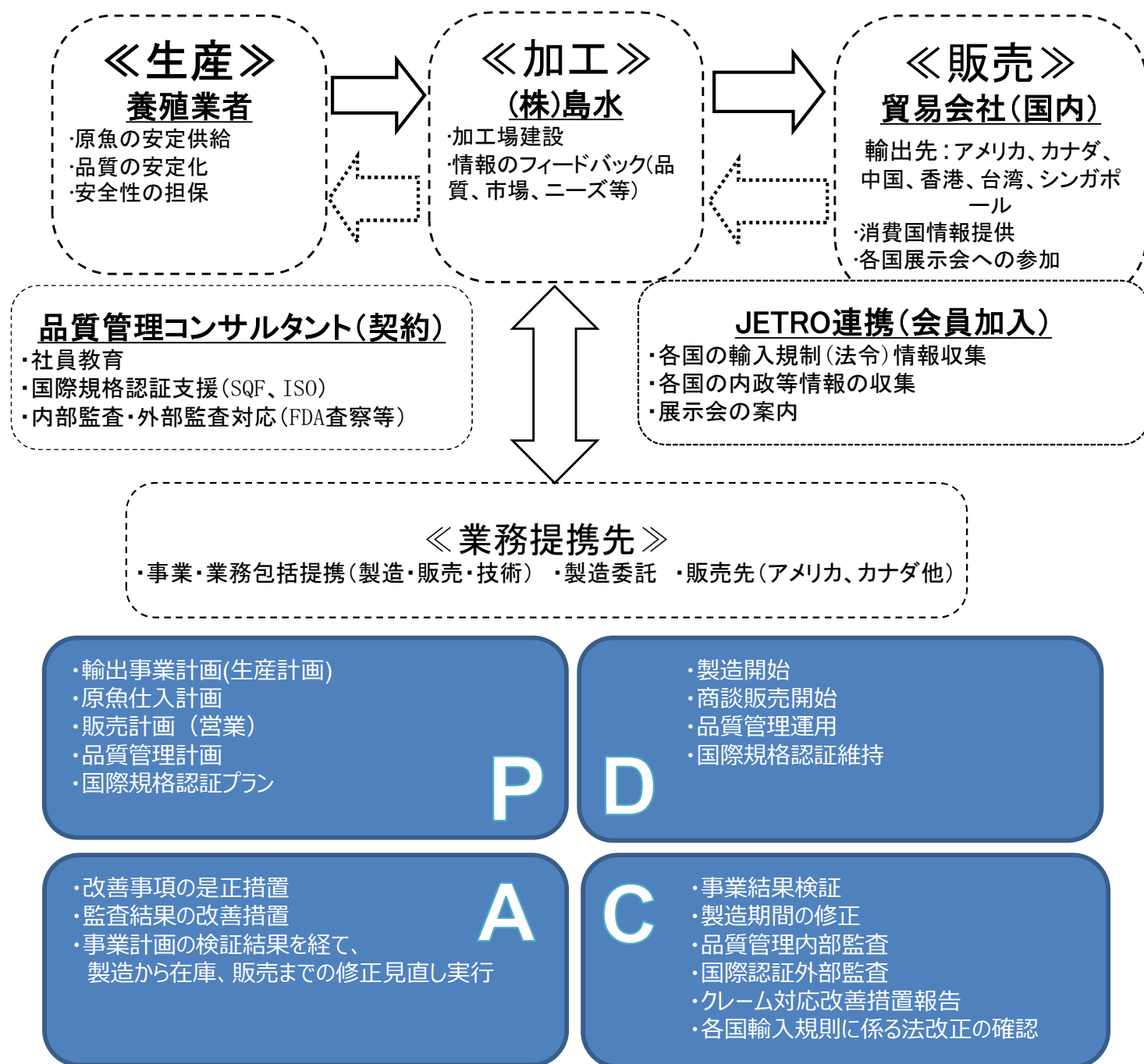
対米HACCP認証後には、アメリカ以外の国々へも輸出するために必要な施設登録申請を進めていく。

並行して、アメリカ向けにはボツリヌス毒素対策により、生鮮の真空包装でも輸出が可能なFDAのグリーンリスト認証取得も目指す。（令和9年まで）

輸出事業計画

※申請者名：株式会社島水、品目：養殖ブリ・その他水産物

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

※輸出先国と輸出する農林水産物・食品の現状及び目標金額を記載すること

輸出品目：養殖ブリ他

輸出先：アメリカ、カナダ、中国、香港、台湾、シンガポール

現状輸出額：63トン 125,414千円

目標輸出額：668トン 1,232,947千円